

エビフリモちゃんの「医療現場へ突撃インタビュー」

みどり市民病院 放射線科医の
河合 辰哉先生に聞きました!!**病気発見!縁の下の力持ち!?**

放射線科のはなし

名古屋市立大学医学部附属
みどり市民病院
放射線科 准教授/部長**河合 辰哉**

[かわいたつや]

2005年 名古屋市立大学医学部卒業、博士(医学)、専門は画像診断、IVR(画像下治療)

はじめに

みなさんの多くは病院や健診でレントゲン検査(エックス線写真)を受けたことがあるかと思います。病気の発見や診断のために不可欠なこれらの画像検査は「画像診断医」と「診療放射線技師」がそれぞれの役割を担いながら行われています。ここではそれぞれの仕事内容や役割についてお話しします。

画像診断医ってどんな人?

画像診断医は、エックス線、CT(コンピュータ断層撮影※写真1)、MRI(磁気共鳴画像※写真2)、超音波などの画像を隅々まで観察(「読影」といいます)して、病気の診断を行う専門の放射線科医師です。診断の結果は、みなさんの担当医と共有され、治療方針の決定に役立てられます。



写真1



写真2

診療放射線技師ってどんな人?

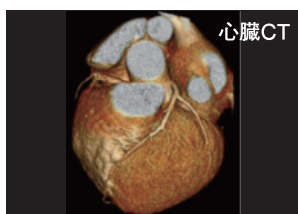
診療放射線技師は、医師の指示のもと、画像を撮影する専門職です。エックス線撮影、CT、MRI、マンモグラフィ、血管造影検査など、さまざまな放射線機器を操作し、正確な診断につながる質の高い画像を提供する役割を担っています。また、検査目的に応じて適切な検査方法を依頼医に提案することもあります。

画像診断のながれ

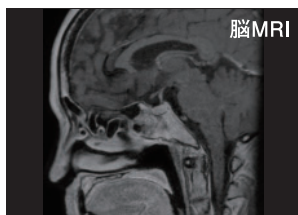
では、皆さんの診療に役立つ検査と診断を行うために、画像診断医と診療放射線技師がどのように協力しているかについて解説します。

1. 画像の撮影

からだの構造や疾患について豊富な知識をもち、様々な部位で正常と異常を正しく判別することができる画像診断医と、撮影装置の特性や取り扱いを熟知した診療放射線技師が協力しながら、患者さんの状態に応じ診断に最適な検査方法を選択しています。放射線を使用する検査であれば、被ばく量を最小限に抑える工夫もしています。



心臓CT



脳MRI

2. 画像の作成と品質管理

撮影された画像の一部は「生データ」といって、まだ正確な診断ができる状態にありません。診療放射線技師はこの「生データ」に適切な画像処理をおこなって、診断に適した画像を作成します。

3. 診断

画像診断医は、できあがった画像を一枚一枚丁寧に読影し、異常を拾い上げます。そして、異常があればそれが何を意味するのかを診断します。ここでは、以前に患者さんが受けた検査結果、カルテの記載内容、依頼医への照会などあらゆる情報を利用します。



4. レポート作成

画像診断医は画像に含まれる大切な情報をこばにして依頼医師に伝えるために、「画像診断レポート」と呼ばれる報告書を作成します。報告書では、診断名だけでなく、必要に応じて次に行うべき検査についての助言も記載されます。

5. 依頼医との連携

報告書の内容をもとに、依頼医師との話し合いを通じて治療方針の決定に関わることもあります。たとえば、フリモ1月号で紹介のあった「腹部大動脈瘤」は心臓血管外科医と、フリモ3月号で紹介した「膝半月板の損傷」は整形外科医とともに診断内容と治療方針の検討を行っています。

まとめ～これからの放射線科

このように放射線科は医療の中で「縁の下の力持ち」として大きな役割を担っており、その重要性はますます高まっています。今後、AI(人工知能)を利用した画像診断支援技術が進むことで、よりスピーディな診断が可能になると期待されています。今のところあまり患者さんからは見えない存在ですが、近い将来、画像という視点から患者さんと一緒に診断や治療方針を共有する機会が増え、もっと身近に感じられるようになるかもしれません。

Information

**予防医学が紡ぐ
幸せな健康未来
～みどり市民病院の挑戦～**

人生100年時代、自分自身はもちろん、大切な家族の健康を守る予防医療。大切な人の【小さな異変に気付く】【ちょっと生活習慣を見直す】きっかけを見つけてみませんか。

